

三郷駅周辺江戸川河川敷の活性化方針

(抜粋)

令和5年2月

三郷市

目 次

I	目的と内容	1
1.	目的	1
2.	対象エリア	1
3.	検討の内容と組み立て	2
II	本対象地区の現状	3
1.	広域的な位置づけ	3
2.	本対象地区の状況	6
1)	土地利用	6
2)	交通アクセス	9
3)	利用状況	11
III	上位・既定関連計画等からみた整備の方向性	13
1.	上位関連計画	13
2.	既定関連計画等	19
3.	上位・既定関連計画等からみた本対象地区に関する提案メニュー	26
IV	河川空間の活用に向けた課題の総括	27
V	河川敷の利活用の方針	28
1.	河川敷の整備の基本的な考え方	28
1)	狙い	28
2)	コンセプト	28
2.	拠点地区の設定と整備の基本方針	30
1)	拠点地区の設定	30
2)	拠点地区への動線の考え方	31
3)	拠点地区の整備ゾーニング	34
4)	ゾーン別整備内容	35
3.	今後の協議会の進め方	41
	資料編	43
1.	三郷市かわまちづくり協議会設置要綱	44
2.	三郷市かわまちづくり協議会委員名簿	46

3. 検討経緯	47
4. その他の関連資料	48
1) 河川敷におけるトイレの整備事例	48
2) 周辺 20 k m圏におけるバーベキュー広場の事例と分布	51

1. 河川敷の整備の基本的な考え方

1) 狙い

本対象地区の整備の主な狙いは次の2点とする。

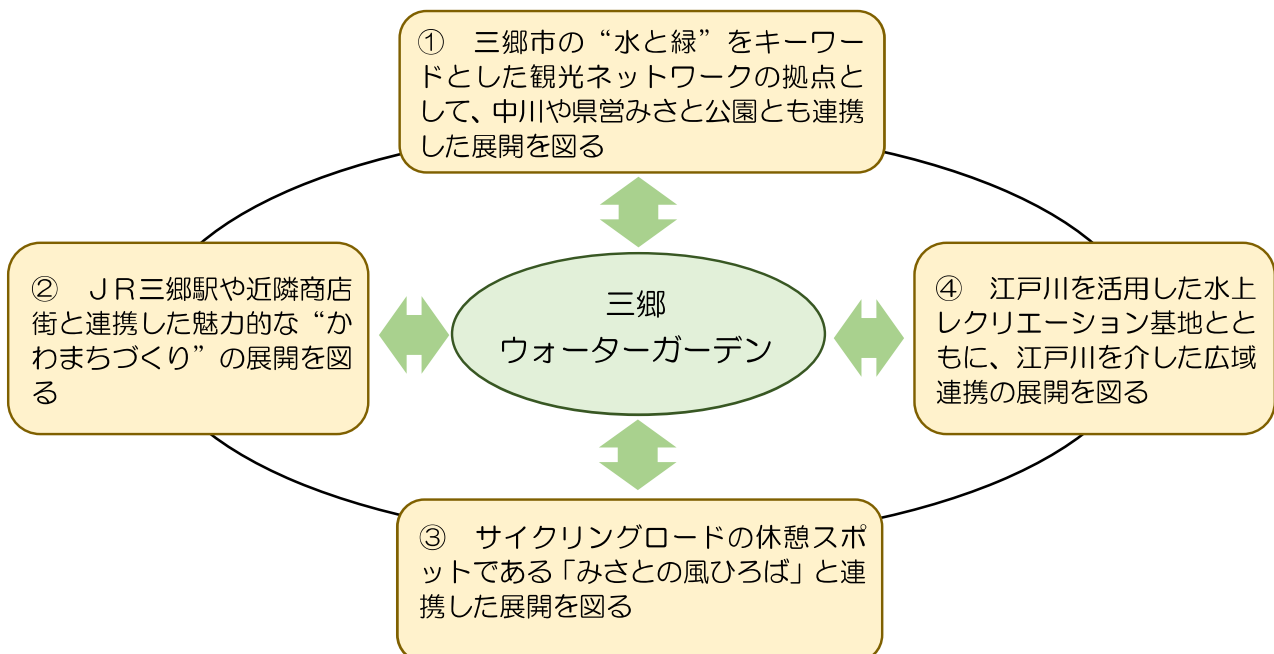
- 三郷市の“レクリエーション核”としての機能を充実することにより、三郷市の観光振興のリーディング的役割を担う。
- まち（街）との連携を強め、河川空間のみならず、“かわまち”が一体となった拠点形成を図る。

2) コンセプト

三郷 ウォーターガーデン

「ウォーターガーデン」とは“誰にでも開かれた水辺空間の庭”ということであり、市民はもとより、積極的に観光客を受け入れ、河川敷周辺のみならず、ここを“水と緑”をキーワードとした観光ネットワークの拠点として、三郷市全体としての観光交流を促進させていくことを目指したものである。

また、このコンセプトに基づく展開の方向は次のものとする。



なお、4つの展開方向は、次のものとする。

① 三郷市の“水と緑”をキーワードとした観光ネットワークの拠点として、中川や県営みさと公園とも連携した展開を図る

首都圏の膨大な観光需要を潜在的に有している本市ではあるが、現状ではこれら需要を誘発・吸引できる拠点形成が必ずしも十分ではない。

本市のイメージアップを、“水と緑”というキーワードを軸として今後展開していくに当たり、本対象地区をその先導的な役割を果たす拠点として位置づけ整備することにより、段階的に中川や県営みさと公園とのネットワーク形成も図られることが期待される。

また、この拠点が整備され魅力を発信していくことにより、JR武蔵野線新三郷駅からばらばらを中心にした膨大なショッピング需要とも結びつき、ショッピング兼観光という新たな誘発効果も期待される。

② JR三郷駅や近隣商店街と連携した魅力的な“かわまちづくり”の展開を図る

本対象地区へのアクセスとしては、車によるアクセスとJR三郷駅からの徒歩や自転車によるアクセスとなるが、いずれのアクセスも現状では必ずしも十分ではなく、特にJR三郷駅は、車を使わない市民や観光客等にとっては重要なアクセスのポイントとなる。

また、本対象地区をより魅力的な空間としていくためにも、本対象地区周辺への各種サービス提供者としての役割や、本対象地区周辺に来訪した人の散策や休憩・飲食・ショッピングの場としてもJR三郷駅周辺を含めた商店街等のまち（街）空間との繋がりは重要であり、そのことにより経済波及効果やまちの魅力発信強化に繋がることが期待される。

③ サイクリングロードの休憩スポットである「みさとの風ひろば」と連携した展開を図る

江戸川サイクリングロードは東京・千葉・埼玉にわたる広域のサイクリングロードであり、多くのサイクリストの利用がある。今年度実施したサイクリストへのアンケート調査の結果によると、「みさとの風ひろば」は貴重な休憩スポットとしての利用のみならず、ここを目的地とした利用も多くみられ、サイクリングロードにおける要所になっている。

この場と本対象地区は隣接した場であり、この休憩スポットと併せてサイクリストにアピールできる場を本対象地区に整備することにより、サイクリストの滞留性を高めることが期待される。また、本対象地区方面のみならず、地元商店街方面へサイクリストの需要を誘引するには、「みさとの風ひろば」での情報発信強化とともに、商店街での受入体制の強化により、さらに滞留性強化の効果が期待される。

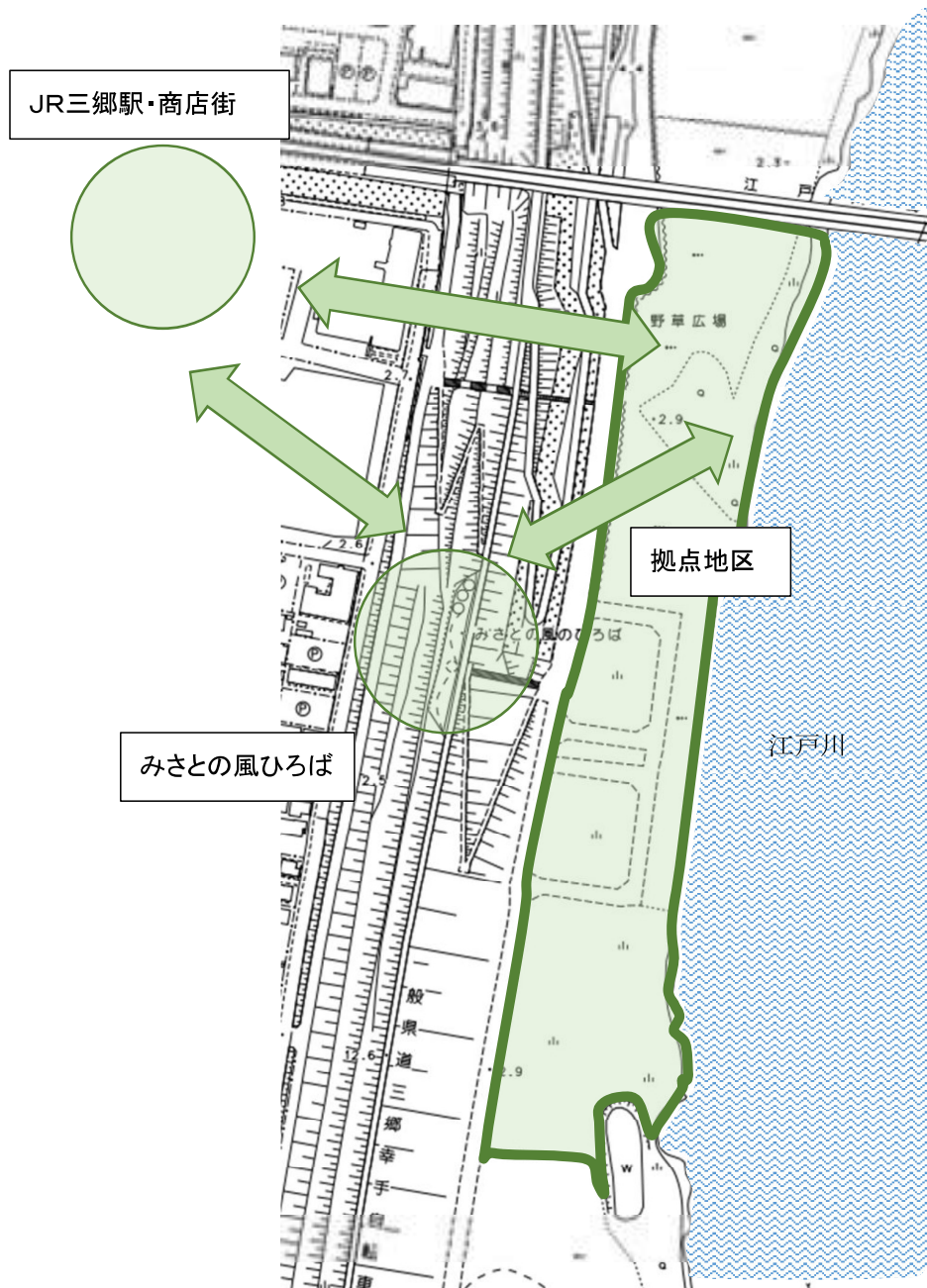
④ 江戸川を活用した水上レクリエーション基地とともに、江戸川を介した広域連携の展開を図る

今後の、中長期的な展開として、江戸川を挟んだ対岸の流山市や、上流・下流域との広域連携を図り、共催によるイベント開催や、舟運による江戸川ネットワークを形成していくことにより、本対象地区のさらなる魅力アップに繋がることを期待される。

2. 拠点地区の設定と整備の基本方針

1) 拠点地区の設定

拠点地区とは、今回の整備対象地区の中で第1期として取り組んでいくエリアとして設定したものであり、関連する「みさとの風ひろば」と「JR三郷駅・商店街」との連携を図るものである。



2) 拠点地区への動線の考え方

① 車の動線に関して

拠点地区への車道は、下図に示すような状況になっており、以下のような問題点を有している。

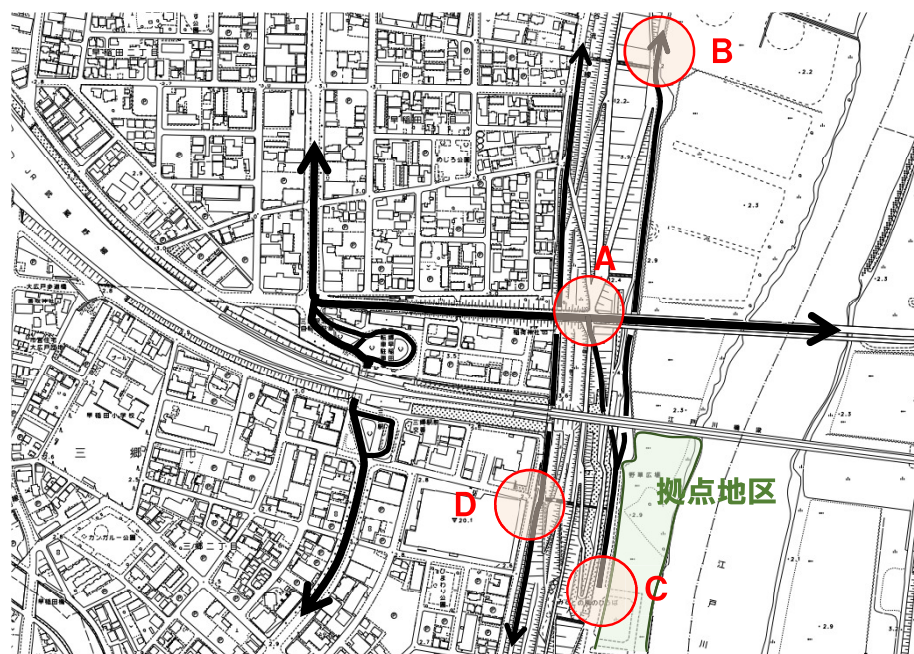
A：拠点地区への基本的なアクセスは、県道草加流山線からの進入となる。しかしながら、西側から県道草加流山線を走ってきた車は対向車線を右折して進入することになり、交通渋滞や事故の危険性が懸念される。

B：さらに北側にあたる運動公園方面からの進入は可能ではあるが、土・日のみが通行可能で、平日は使用できない。

C：緊急船着場の所にポールが設置されており、通常は行き止まりとなっている。

D：駅方面から自転車や徒歩で拠点地区へアクセスするには、市道 5078 号を横断することになり、比較的交通量も多く、スピードを出して走行する車もあることから、事故の危険性が懸念される。

●現在の拠点地区へのアクセスに関する道路と検討対象箇所



A：西側からきた車が左折できない箇所



D：道路の横断に危険性がある箇所



これらの状況を踏まえ、関係機関との調整が前提となるが、本方針の考え方としては、以下の方針とする。

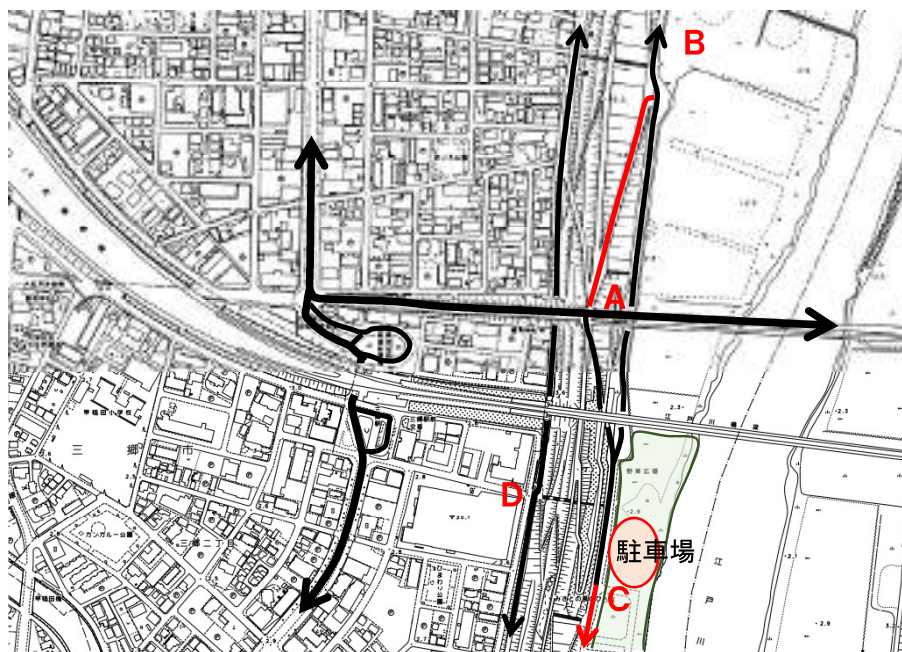
A：県道草加流山線の西側から走ってきた車がアクセスする際に、通常時も左折して進入ができ、堤外道路に接続できるよう規制緩和を検討する。

B：北側からの現在の運動公園へのアクセスは、土・日曜日に限られているが、平日の拠点地区へのアクセスは「A」からのアクセスが基本になると思われるので、これについてはさらなる規制緩和は考えないものとする。

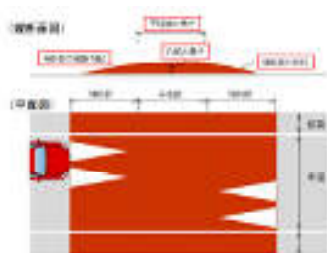
C：拠点地区に駐車場を設置し、そこまでは現在の通行規制でもアクセスできるが、可能であればサンケイスポーツセンター方面からのアクセスも可能となるよう、関係機関と調整の上、ポールの除去等の規制緩和を検討する。

D：歩行者等の安全確保を図るため、注意を促す看板や、ハンプ（下図のイメージ例参照）による車への意識づけ及び歩行者等が安全に市道を横断することができるようにするためのインフラ整備等の対応策について、今後検討する。

●今後の対応策の考え方についての対応箇所



D：ハンプによる速度抑制の手法例



(資料：国土交通省 国土技術政策総合研究所資料)



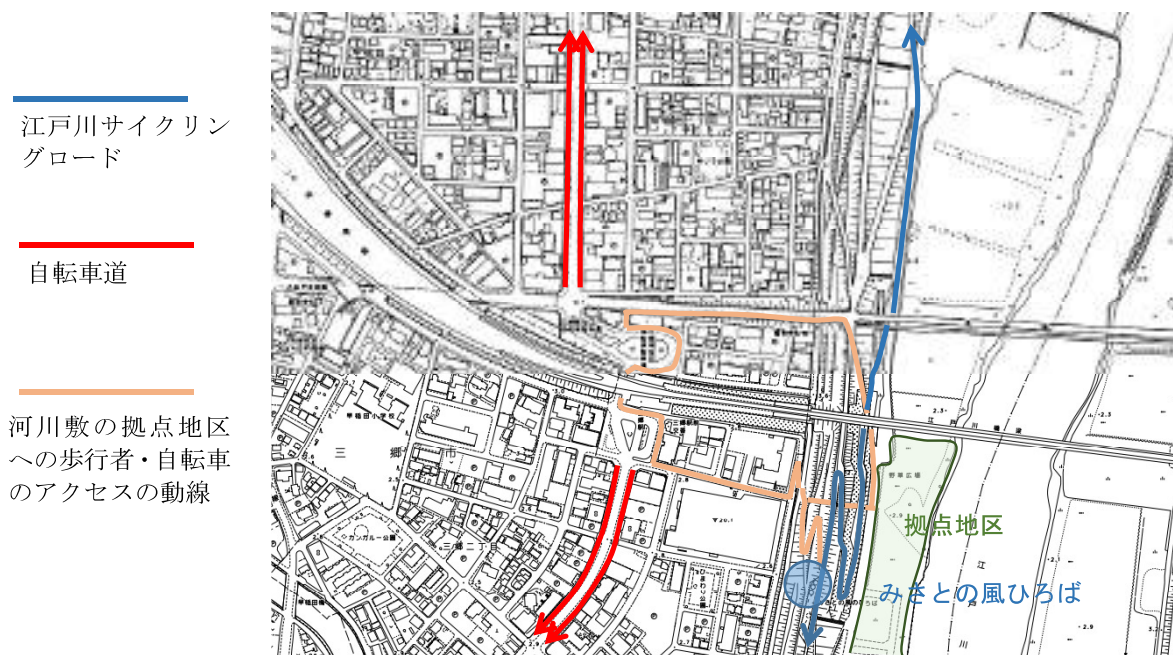
(資料：吉川市の事例)

② 歩行者・自転車の動線に関して

拠点地区には「江戸川サイクリングロード」が走るとともに、三郷駅を挟んで南北に走る市道には「自転車道」が設けてあり、“自転車のまち”としての基盤整備が進められている。

本対象地区の今後の利用促進を考える上でも、「江戸川サイクリングロード」の利用者を含めた“サイクリスト”の誘客は重要な視点となる。

そこで、三郷駅～河川敷までの歩行者・自転車によるアクセスは、下図に示すルートの基本とする。特に自転車は、自転車ルートとしてのサイン等を含めた沿道環境の整備を進めるものとする。



江戸川サイクリングロード



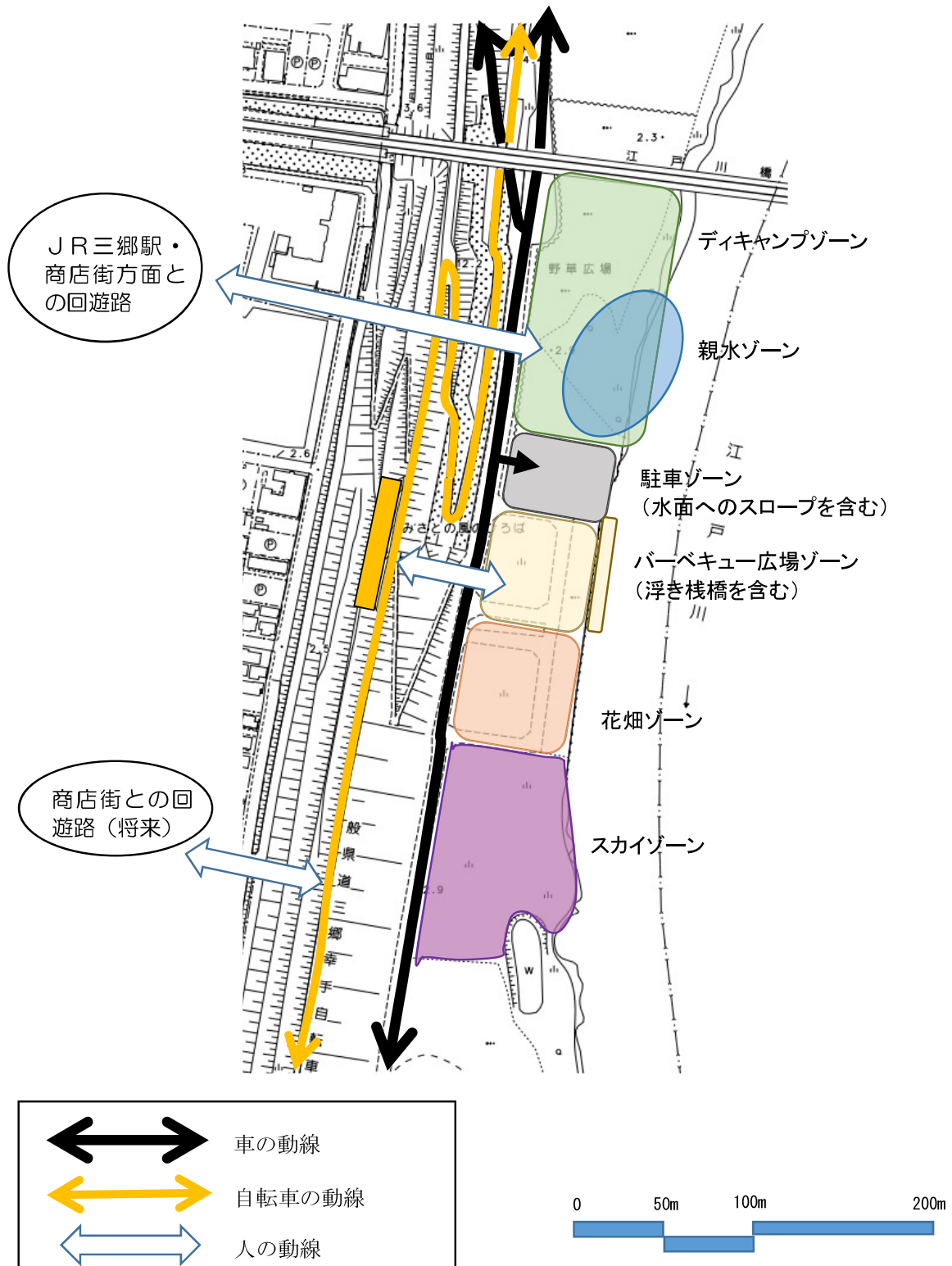
市道の自転車道



3) 拠点地区の整備ゾーニング

拠点地区のゾーニングは、以下に示すものである。

また、この拠点とJR三郷駅さらにはまち（商店街）との連携を含め、連携を誘発する仕組みづくりをおこなっていく。



4) ゾーン別整備内容

ゾーン名	整備イメージ
<p>ディキャンプ ゾーン</p>	<p>○親子連れや若い人たちが、川辺の風に吹かれながら、思いおもいに食事をしたり休息したりできる場所である。</p> <p>○テントは利用者の持ち込みとして、テントを設置できる場所は整備する。</p> <p>○水場（水道水）を整備し、河川敷利用者の水場としても活用する。</p> <p>○高水敷の水路から、親水ゾーンへの引き込み小川を整備する。</p> <p>【今後の検討課題】</p> <p>※水場の設置に当たっては、水道水の引き込みと、排水問題を検討する必要がある。また、水場の設置場所については、このゾーンが適切か否かの検討も必要である。</p> <p>※親水ゾーンへの小川の引き込みについては、取水・排水方法を明確にしておく必要がある。</p>
<p>親水 ゾーン</p>	<p>○江戸川に直接触れられる親水空間で、現在の擁壁を一部親水護岸に改修してじゃぶじゃぶ池的な場とする。</p> <p>○引き込みの小川を含め、ビオトープ等の環境学習もできる場である。</p> <p>【今後の検討課題】</p> <p>※潮位の変化を含め、水難事故等の安全対策について検討する必要がある。</p>
<p>駐車場 ゾーン</p>	<p>○拠点を利用する人の車の駐車スペースとする。駐車場は極力河川敷空間に馴染む、芝生型駐車場的な整備を工夫する。</p> <p>○水上イベントを楽しむためのスロープを整備し、ボート等の江戸川へのアクセスの場とする。</p> <p>○誰もが使いやすいトイレを整備する。但し、常設でなく洪水時には移設可能なトイレとする。</p> <p>【今後の検討課題】</p> <p>※駐車台数やイベント開催時における駐車場対策も含めた検討が必要である。</p> <p>※駅利用者等の無断駐車対策等、駐車場の運営について具体的な検討が必要である。</p> <p>※トイレについては河川の管理上、支障がないものを設置する。</p>

<p>バーベキュー広場 ゾーン</p>	<p>○バーベキューを楽しめる広場であるとともに、イベント時にはメイン会場として利用する場となる。</p> <p>○食材の提供を行うための搬入車両やキッチンカーのスペース、サイクルラックを駐車場と併設させ、サイクリストの誘客を図る。</p> <p>○駐車場からのスロープと連動させ、イベント時には臨時浮棧橋を設置し、ボート、カヌー、屋形船等の水上レクリエーションが楽しめる場となる。</p> <p>【今後の検討課題】</p> <p>※緊急船着場エリアの一角でもあり、利用の在り方については国との事前調整が必要である。</p> <p>※バーベキューによる近隣住民への環境（臭い、煙等）の配慮が必要である。</p>
<p>花畑 ゾーン</p>	<p>○ワイルドフラワーにより、年間を通して花が咲いている空間で、拠点の存在をアピールする場となる。</p> <p>○堤防敷の法面も一体的に花による演出を図ることにより、景観として大きなインパクト効果を持つ。</p> <p>○花による迷路づくりを演出し子どもも楽しめる場とする。</p> <p>【今後の検討課題】</p> <p>※河川敷は年に何回か増水し河川敷一帯が水に浸かったり、災害時には物資の搬出入を行う場所となるので、それらを踏まえた植栽対策が必要である。</p>
<p>スカイ ゾーン</p>	<p>○ドローンの飛行エリアを整備する。</p> <p>○飛行エリアは、ラインやカラーコーン等で飛行区域を明示し、ハード的な施設整備は不要である。</p> <p>○利用者は、ドローン初心者から上級者の他、業務用の試験飛行や飛行コンテストなどのイベント開催も可能となる。</p> <p>【今後の検討課題】</p> <p>※現在想定しているエリアは、鉄道からは十分な距離が保たれているが（一般には障がいとなるものから30mは離すこととなっている）、市の未占有区域で自然環境の保全ゾーンとしての位置づけがなされているので、今後河川管理者との利用調整は必要となる。</p> <p>※パラグライダーやハンググライダー等、空域を利用した活動についても今後検討していく。</p>

その他
関連整備対象
(含：今後の検討
課題)

【みさとの風ひろば】

- 三郷市内の観光スポット、グルメスポットや自転車の修理等ができる案内の情報提供機能を整備・充実する。
- みさとの風ひろばの拡充については、今後の河川敷の利用動向と併せ、関係機関との調整の上、検討を進めていく。

【JR三郷駅～拠点地区】

- 三郷駅に江戸川河川敷の案内機能を設ける。
- 駅から拠点地区までの道路のペーブメントづくりを進める。
- 市道 5078 号の横断に当たっては、横断箇所前後に車の運転者に対する安全走行に対する意識づけの対策をおこなう。また、関係機関との調整の上、さらなる安全対策の可能性について検討を進めていく。
- 中長期的には、三郷駅の乗降場を江戸川方面に延長し、イベント時などの河川敷への直接的な改札口を設ける。

【商店街】

- 河川敷でバーベキューを楽しむ人への食材の提供やキッチンカーの配車等の役割を担う。
- 観光客やサイクリストに対する飲食やショッピング情報の提供や、ホテルと連携したサイクリストへのシャワールームの提供といった、受入体制の整備を推進する。

【河川敷におけるイベントの開催】

- 例年、江戸川運動公園で「みさとサマーフェスティバル花火大会」、三郷緊急船着場で「みさと船着場フェスティバル」が開催されており、「みさと船着場フェスティバル」のイベントについては、本方針の整備に合わせ、内容・期間等の拡充を検討する。
- また、本方針の整備に合わせ、防災学習や自然観察等のイベントとともに、「ドッグラン」や「水上イベント」といった河川敷を活用したイベントについても検討していく。

3. 今後の協議会の進め方

三郷市かわまちづくり協議会において、三郷駅周辺江戸川河川敷の活用化方針の検討後も、かわまちづくり計画の登録についての検討、利活用に向けての具体的な検討、整備後の利活用の調整等、協議会を通して官民一体となって事業に取り組んでいく。

<三郷市かわまちづくり協議会の今後の進め方>

